

平成22年度 関西大学年史資料展示室企画展

A black and white portrait of Okiyama Torii, an elderly man with glasses, a mustache, and a dark suit with a tie. He is looking directly at the camera with a neutral expression.

関大 ルネッサンス

— 岩崎卯一没後50年記念展 —

2010年4月1日(木) 開館 【開館時間】 午前10時～午後4時

【場所】 関西大学千里山キャンパス 簡文館1階 【休館日】 土曜・日曜・祝日・大学が定めた休日 【入館料】 無料

1 関大史上、数多くの「第一号」

岩崎卯一（1891-1960）は、数多くの「第一号」となった人物として関西大学の歴史にその名をとどめている。

大正4年（1915）12月、関西大学が初めて海外に送り出した留学生であり、アメリカ・コロンビア大学でドクター・オブ・フィロソフィーの学位を取得して帰国後、大正10年（1921）8月、本学初の専任教授に就任。さらには昭和9年（1934）4月から初代法文学部長、昭和13年（1938）9月から初代図書館長などを務め、昭和22年（1947）5月には関西大学出身者として初めて学長に公選された。また、昭和30年（1955）12月には初の公選校友会会長にもなっている。



三笠宮殿下を案内し、学生たちと歓談する

2 「関大ルネッサンス」

昭和22年（1947）5月、学長に選出された岩崎は、就任にあたり「関西大学の長い伝統の中で育まれた真理究明の真髄を新たに再発見しなければならない。そして真理の探求に命をかける者は、どのような困難とも闘う熱意と勇気を持たなければならない」と説く「関大ルネッサンス」を提唱。敗戦によって物心ともに荒廃している学生たちに勇気と希望と情熱を与えた。

その翌年（1948）には「学徒の使命である真理の探求のために余裕と忍耐力を持ち、本質的な問題をとらえ、静かに研究し、批判せよ」と説く「関大アカデミア」を提唱。さらに学長就任3年目には大学院設置構想を「ハイト関大」のスローガンに込めた。

「関大ルネッサンス」で目を外へ向けよ、「関大アカデミア」で身も心も内へ深く沈潜せよと説いてきた岩崎は、「ハイト関大」で志を上へ向けよ、大学の質的向上に努力しようとアピールしたのである。



関大アカデミアを呼びかける（昭和23年）

3 学園大家族主義

大学は理事、教職員、校友会、教育後援会、学生で構成する学校協議会を昭和22年（1947）2月に発足させ、学園の諸問題を民主的に協議する体制をつくった。そして岩崎が学長に就任して程なく開かれた学校協議会では、授業料値上げが議題の中心となった。

学生たちの大学経営に対する批判は厳しかったが、そのとき岩崎は「学校は制度としてゲゼルシャフト（利益社会）であるが、精神と運営においてはゲマインシャフト（共同社会）でなければならぬ」という「学園大家族主義」を提唱した。この提言に共鳴した父兄たちは、学園の発展のために、協力を惜しまないとの考えを表明した。また、法人も財政状態を隠すことなく公表した。その結果、法人の提案する授業料増徴案は学生たちの認めるところとなった。岩崎の「学園大家族主義」が大学の運営をスムーズに進める契機になったのである。



法学部法律学科の卒業記念写真（昭和24年）

略年譜

明治24年（1891）	11月10日	佐賀県杵島郡武雄町にて出生
大正2年（1913）	10月	関西大学専門部法律学科第2学年に編入
大正3年（1914）	12月	弁護士試験に合格
大正4年（1915）	7月	関西大学専門部法律学科卒業
大正4年（1915）	12月	関西大学第1回海外留学生として米国コロンビア大学へ留学
大正10年（1921）	8月	ドクター・オブ・フィロソフィーの学位を取得して帰国。 関西大学が任命した初の専任教授に着任

4 学生に人気の教授

大正10年(1921)7月、アメリカ留学を終えて帰国した岩崎は、8月に関西大学が任命した最初の専任教授として着任した。アメリカで最先端の知識を修得した岩崎の講義は非常に斬新で、内容が多岐に亘っていたため、その評判は瞬く間に学生たちの間に広まり、教室はたえず満員、本来の履修学生が締め出されるほどの盛況ぶりであった。

「ゲゼルシャフト」「ゲマインシャフト」に代表される岩崎の社会学は、京都大学の「高田社会学」、関西学院の「小松社会学」とともに関西の三大秀峰と称された。

さらに岩崎は、学生の弁論部(雄弁会)や野球部の部長として、部の育成、発展にも努めた。弁論会では熱弁をふるい、多くの聴衆を魅了した。また、野球部の試合や海外遠征にも同行している。岩崎は、正課のみならず、課外活動においても学生たちの育成に力を尽くした。



福島学舎で社会政策の授業を行う

5 校友会への貢献

昭和8年(1933)、校友会常議員に選出された岩崎は、校友会の組織確立に取り組んだ。それまで学部、専門部一部、同二部のOB組織は、それぞれ独自の活動を行っていたが、岩崎は3者の大同団結を提唱。自ら規約改正委員を引き受け、校友会会則の改正に取り組んだ。その結果、昭和13年(1938)2月14日の校友総会で改正案は承認され、一つに統一された校友会組織が実現した。

さらに昭和22年(1947)、学長になってからの岩崎は、いち早く校友課を設置し、敗戦による混乱収拾に努力した。こうしたことから昭和30年(1955)に校友会がはじめて公選会長を選出した時、岩崎は初代会長に選ばれた。校友会発展のために、母校出身者で、なおかつ将来の発展を託すべき人材として、校友の衆望を岩崎が担っていたと言えるであろう。岩崎はまたその期待に応え、堂々たる会長ぶりを示した。



大同団結が成った校友会総会(昭和13年)

6 岩崎記念館

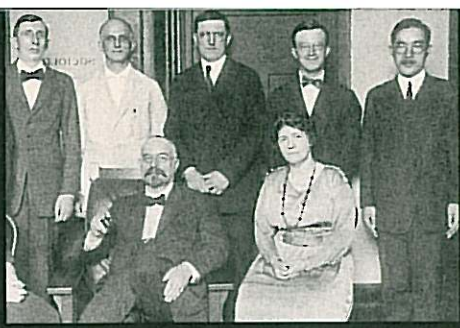
戦前から戦後にかけて嵐山に住んだ岩崎は、天竜寺管長の関精拙、関牧翁と親交を深め、精神修養を行うとともに、天竜寺の庭園を愛した。その後、長岡に転居した岩崎は、百姓家風の藁葺きの邸宅に、風趣あふれる巨石と樹木を配した広大な庭園をつくって楽しんだ。

昭和35年(1960)6月8日、岩崎は68歳の生涯を閉じたが、故人の遺志により蔵書と住んでいた土地の半分が大学に寄贈された。ヌイ夫人の死後、住宅地は売却され、昭和49年(1974)に建てられた大学院学舎建設費の一部に充当された。大学はこの学舎を岩崎記念館と命名し、偉大な功績を称えるとともに、その遺徳を末永く顕彰している。



ヌイ夫人とともに

昭和9年(1934)	4月	関西大学法文学部長(初代)
昭和13年(1938)	9月	関西大学図書館長(初代)
昭和22年(1947)	5月	第17代関西大学学長。「関大ルネッサンス」を提唱
昭和28年(1953)	11月	第19代関西大学学長
昭和30年(1955)	12月	関西大学校友会会長(公選初代)
昭和31年(1956)	11月	第20代関西大学学長
昭和35年(1960)	6月8日	没(享年68歳)



関西大学年史編纂室

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35
 関西大学千里山キャンパス 簡文館内

TEL: 06-6368-1062 (直通)

URL: <http://www.kansai-u.ac.jp/nenshi/>

■ ACCESS ■

阪急千里線「関大前」駅下車 徒歩10分

※お車でのご来場はご遠慮ください。



上から

- コロンビア大学のドクターコースで
恩師ギディングス教授を囲んで
- 野球部の朝鮮・満州遠征に同行（大正15年）
- 学長室にて
- 欧米視察に出発（昭和31年）
- 証書を授与
- 佐賀での講演（昭和29年）
- 天竜寺管長関精拙師とともに